

**第3回 小平市子ども・子育て審議会 会議要録**

日時	令和3年2月3日（水） 午後1時30分～3時30分
場所	小平市役所 6階 大会議室
出席者等	子ども・子育て審議会委員・・・14人（欠席2人） 傍聴人・・・5人
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度児童館の事業計画（案）について</li> <li>・令和3年度学童クラブ事業（案）について</li> <li>・令和3年度小平市子ども家庭支援センター事業計画（案）について</li> <li>・家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行について</li> <li>・民設民営学童クラブ補助対象事業の決定について</li> </ul>
議事	(1) 令和3年度児童館の事業計画（案）について (2) 令和3年度学童クラブ事業（案）について (3) 令和3年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について (4) 家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行等について (5) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について (6) その他
<b>上記内容についての意見・質疑応答</b>	
(1) 令和3年度児童館の事業計画（案）について	
委員	児童館はコロナ禍で居場所がない人たちにとって大事な事業である。児童館の経費はいくらか。
事務局	事業にかかる消耗品の経費は館毎に計上しており、月5万円程度である。
事務局	児童館事業の経費は指定管理料で払っており、3館で年間約6,000万円である。
(2) 令和3年度学童クラブ事業（案）について	
	特になし
(3) 令和3年度子ども家庭支援センターの事業計画（案）について	
委員	子ども家庭支援センターの子育て交流ひろばと児童館は違いがあるのか。

事務局	子ども家庭支援センターの子育て交流ひろばと、児童館で行っている市民に行っている事業に大きな違いはないと捉えている。子育てをしている方に寄り添って、子育てを楽しみと思えるような事業になるよう、目指している。
委員	コロナ禍で子育てが孤独な状況で大変である。子育て交流ひろばはどれぐらいの方が使われているのか。毎回同じ方なのか広く使われているのか状況を聞きたい。
事務局	これまでは、どなたでも自由に利用できたので、昨年度はおおよそ一万人が訪れた。今年度は感染予防のために時間を区切って人数を絞って行っている、減ってくると思う。コロナ禍で家にこもっているのが嫌だという方が来所する傾向である。
委員	家庭数だとどれぐらいなのか。
事務局	繰り返し利用する方も１回だけ利用の方もいるが、子ども１人大人１人で一組となるので、利用人数のおおよそ半数ぐらいが世帯数になる。
委員	毎回来る人と利用しない人もいると思うが、市内の多くの皆さんにご利用してもらうようアナウンスが必要だ。
事務局	ホームページや出張ひろばで周知を図っている。
事務局	市内には、子ども家庭支援センターの子育て交流ひろばと地域センター等で実施している子ども広場の計７か所の拠点がある。それぞれの地域の方がそれぞれの利用しやすい場所を利用していただけるものである。市内の全ての人が同じひろばに行っているわけではなく、子ども広場と分散して使っている。
会長	豊かな取り組みであるので、今まで以上に市民の方に情報提供をお願いしたい。市内７箇所の広場にそれぞれの地域の方が利用される方が増えるように期待したい。
委員	外来の患者さんでコロナの状況で不安を抱えている方が増えているが、ティーンズ相談室の相談数は増加しているか。その対策をとっているか。
事務局	昨年度、児童からの相談件数は９５０件であるが、今年度は来所については予約制にして人数を制限しているので減少すると思う。相談室に来られないお子さんにはこちらから連絡して状況を聞いたり、定期的に訪問したりしている。
委員	例年と比べて増えてはいないのか。

事務局	今年度は、来所相談についても予約制をとっているのでは、増えてはいない。
委員	保育園の保護者でもコロナで悩みを抱えてる方がいる。また、地域の方から、「行き場所がない」といった相談がある。子ども家庭支援センターで令和3年度に力を入れるところは何か。
事務局	これまで関わっている親子に電話で連絡し話を聞くなど、きめ細かに対応している。今年度から、周知活動としてホームページに動画をアップして、在宅でも子ども家庭支援センターを知っていただけるようにしている。
委員	虐待などの話もあるので市民の多くの方が利用できるといい。
委員	情報発信に関して、ホームページだけだとなかなかたどり着けない。例えば、スーパーや公園の掲示板でQRコードを周知するなど、自分から情報にアクセスすることが難しい人に向けた仕掛けがあるとよい。
事務局	いろいろな手段で知ってもらおう工夫をしていきたい。
委員	病院では相談が増えているのに、ティーンズ相談室は減っているとなると、そこから漏れてる方がいるのではないかと。自分から助けを求めていける人は大丈夫と思うが、助けを拒否する人、見えない人が深刻だと思う。その辺りの支援の仕方が難しい問題だと思う。ティーンズ相談室につながるプロセスは、自分から相談室を訪れるのか、周りから行くように言われるのか。
事務局	経路はいろいろで、自分から相談に来ることもあるし、関係機関や学校、親からつながる場合もある。
委員	漏れている人が多いと思うので、子どもが自分からアクセスできる仕組みがあるといい。民間の自立支援施設が国分寺にあるが、若い子はSNSを使いこなしているので、色々な手段を設け、辛い状況を抱えている子どもが簡単にアクセスできるといい。
会長	新年度の事業としてより周知・情報提供をお願いしたい。支援の内容はコロナ禍であることを念頭に置きながら充実させてほしい。
(4) 家庭的保育事業（地域型保育事業）への移行等について	
委員	家庭的保育室は自宅で保育するものか。給食の提供がされるようになると調理員が必要と思う。調理場は自宅のキッチンだと思うが、衛生面はどうなのか。
事務局	現在も若干の提供を行っているが、家庭的保育室になると、保育園のような調理室を設けるわけではないが、基準があるのできちんとした提供ができるように我々が見ていく。下ごしらえした食材を仕入れて調理していく形にな

	る。
委員	令和 3 年度の保育園の 1 次の申込み状況を聞きたい。待機児童の状況はどうか。
事務局	今年度の待機児童数は 1 歳 2 歳が多かったのでその分が持ち上がってくる傾向である。0 歳は安定している。コロナで出産控えがあるのではないかとされており、その影響で減少しているのかと思う。しかしながら、共働き世帯の増加があり、まだまだ待機児童は減少していない。今時点の集計だと 0 歳が 345 人、1 歳が 534 人、2 歳が 224 人、3 歳が 158 人、4 歳が 33 人、5 歳が 9 人である。
委員	認可保育園、私立保育園協会としても協力していきたい。随時状況を教えてもらい、小平市の子ども達のニーズにしっかりと応えていけたらと思う。
委員	待機児童の解消策として、その他あらゆる対策を検討するとの中に幼稚園の認定こども園の推進という考えはあるのか。幼稚園型は認められず 0・1・2 歳からやらないと認定こども園に移行できないかとの問題も抱えているが、どうなのか。
事務局	待機児童の完全な解消はまだ難しく、あらゆる方策を講じていかなければいけない。定期利用保育や幼稚園の預かりも含めてトータルで解消していきたい。幼稚園型や幼保連携型など、こども園への移行については様々なご相談も受けている。待機児童解消の方策と合わせながら考えていきたい。
委員	幼稚園型のこども園も認めていただけるということか。
事務局	保育課として注視しなければいけないことは待機児童、特に 1・2 歳の解消である。法人と協議しながら、保護者のニーズや地域的な状況を見極めながらご相談させていただきたい。
委員	協議は是非お願いしたい。保育園だけではなく、多様な機関が力を合わせながら待機児童を解消していきたい。幼稚園の預かり保育も無償化の制度が始まり 2 号認定になる方が増えており、現場の声を聞いて協議いただければと思っている。
事務局	これまでも、各法人の園長先生はじめ、ご相談いただいているので、ご意見を伺いながら進めていきたい。
(5) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について	
委員	新設学童クラブの定員 40 名は守られるのか。マンションの一室のように見えるが、広さが気になる。
事務局	定員については募集の段階で 40 名程度とすることと事業者に伝えている。市の基準である児童一人当たり面積 1.65 m <sup>2</sup> 以上を確保することを補助の条

	件としており、場所としては 40 名以上入るところである。公立の学童クラブでは、申請期限までの申込みは全員受け入れている。民間学童クラブは公立にはないサービスを求めて申し込むところである。そのような場所を確保するために補助を始めた。
委員	花小金井の民間学童クラブは送迎や活動も習い事が多く、ここに入りたいという希望が殺到するのではないかと。どのようにしたら入れるのか。
事務局	事業者からはかなりの方から問い合わせが来っていると伺っている。車での送迎もあるので、対象となる小学校も 9 校となっている。申し込みは事業者に行い、選考も事業者が行う。学童クラブとして利用する頻度が高い方や、習い事のサービスを多く利用する方を優先して入れる予定と聞いている。
委員	申し込みは子育て支援課ではなく事業者に行うのか。
事務局	公立の学童クラブは子育て支援課で行うが、民間学童クラブは事業者で行う。
委員	民間学童クラブは小平市の学童クラブのルールに則り運営していくのか。
事務局	放課後児童支援員の資格を持つ方を配置するなど、市の学童クラブで運営に際して守っていることを遵守していくことが前提で事業者を募集している。また、それを確認した上で補助の決定をしている。
委員	公立の学童クラブと同じことをしつつ、希望者の多様なニーズに応えるということで、公立と同じ補助金が事業者に入るのか。また、事業者は収益をあげなければいけないと思うが、収益のあげ方は事業者に任せるのか。
事務局	市から交付する補助金に関しては、国と都の補助金の範囲内で市から交付するということになっている。市から渡す補助金に関しては、あくまでも学童クラブの運営に関するもので、その他の習い事等に対しては補助を行わない。学童クラブの運営は補助金だけでは採算が取れないので、事業者の方で多様なサービスを提供し採算を採れるような運営を行うものと思う。
事務局	民間として色々な習い事サービスをする事業者がいて、そこで放課後の預かりもするとイメージしていただけると良い。その放課後の預かりのところは学童クラブの補助を行う。公立の学童と同じ基準、面積要件や資格者を配置するなどを満たせば、国や都の補助を活用し市として補助を行う。市民の契約となるのでここに入れない方はどうなるかというと、就労など学童クラブの入会要件を持った方は公立で待機児童を出さずにお預かりする。
委員	保護者からのニーズがかなりあると思うが、今後このような運営の仕方を増やしていく考えはあるのか。

事務局	まずは2箇所を始め、運営状況や申込状況を見ながら今後考えていきたい。
委員	学童クラブで重なる部分があると思うが、そこに補助金も使われるのか。民間独自のものにも補助金が使われるのか。
事務局	学童クラブとして使用するところが補助の対象となっている。習い事などの民間のサービスには補助を行わない。
委員	この補助金はずっと継続するのか。それとも5年10年で見直すものなのか。
事務局	補助金であるので毎年申請していただき、要件に合致しているかを見る。
委員	1年毎に内容など使い方を精査するということか。
事務局	定期的に点検を行い、きちんと運営していただく限りは予算の範囲内で補助をしていくことになる。
委員	通っている方の満足度や市民から見た意見などは加味されるのか。
事務局	口コミや直接現場の保育の様子を見るなどして確認したい。たくさん申し込みがあるところは良いサービスが行われていると判断できるし、逆に少ないところは問題があるのではないかと思いますので、見極めていきたい。
委員	5・6年前に都内の学童クラブを見学したことがあるが、新宿区では学校に併設ではなく地域の離れたところに学童クラブがあり、そこはかなり充実しており、ドラムなどが置いてあったり、塾に通ったりできて、衝撃を受けた記憶がある。テレビなど報道を見ると、こういったところが増えてきている印象がある。
委員	このシステムを導入するきっかけは何か。多様なサービスの費用の設定は事業者がすると思うが、事業者の利益が上がると補助金を見直すということはないのか。
事務局	導入のきっかけとしては、保護者の声、ニーズなどである。父母連絡会との意見交換会で民間学童クラブを導入してほしいとの声を毎年いただいていた。公設の学童クラブではなかなか提供できないサービスでも民間学童クラブであれば柔軟な対応ができることもあり、保護者の多様なニーズに応えられるとのことで、市で検討した。補助金は学童クラブの放課後児童健全育成事業に対する部分に対してであり、習い事の部分は別経理となるので習い事の収益は補助金に影響を及ぼさない。

会長	学童クラブは待機児童を出さないことを主として考えていて、審議会にも課せられた課題である。乳幼児期の待機児童解消だけではなく、小学生に上がった時の受け皿も考えていかなければいけない。公設でカバーできない部分を民設民営の取り組みを活用しながら、待機児童解消を図っていただきたい。
(6) その他	
	特になし